

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	キッズすてっぷさせば(児童発達支援)		
○保護者評価実施期間	令和6年 10月1日	～	令和6年 10月31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	3名	(回答者数) 3名
○従業者評価実施期間	令和6年 10月1日	～	令和6年 10月31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7名	(回答者数) 7名
○事業者向け自己評価表作成日	令和6年 11月 29日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・スタッフ2人で1チームになり、案を出し合って作成される「グループ活動のプログラム」の実行!	・お子さま、保護者様に分かりやすいように、活動プログラムを毎月作成している。 ・活動にネーミングをつけて、親しみがもてるようにしている。 ・チームワークを大切にしている。	・5領域の内容を取り入れていく。 ・充実した話し合いの場を作っていく。
2	・専門的支援の実施!(主に理学療法士からのアプローチ、また経験5年以上の保育士や児童指導員からのアプローチ)	・ニーズに応じながら、個別にプログラムを立て、その時々のお子さまの様子に合わせて、手厚い支援に心がけている。	・専門職同士の連携。(事業所内、法人内) ・専門的知識の収集。
3	・そして、安心感をもって頂き、継続して通っているお子様が多いこと!	・「楽しいな!」「会いたいな〜!」「一緒に過ごしたいな〜!」など、仲間や大人と一緒に共感できる気持ちを大切にしている。	・安心して通って頂けるように、保護者様のご意向を丁寧にお聞きしていけるようにする。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・移行支援の実績不足。	・学校訪問や園への訪問はスタートしているが、繋げる支援までは行えていない。	・まずは、学校や園と連携を行い、情報共有を行っていく。 ・個別支援計画の共有化を目指す。
2	・外部との連携が不足している。(医療や発達支援センターなど)	・どこが主となり、連携をとっていくべきか、流れの把握ができていない。	・どのように連携をとっていくべきか、考えていく。 ・医療、保健などの繋がりがどうもてるか、情報収集をしていく。
3	・構造上、玄関が2階となり、階段の昇降が必要となる。	・構造上、やむを得ないと考える為、工夫をしていく。	・滑り止めを強化する。 ・手すりの使用を声かけする。 ・階段の昇降は、必ずスタッフが誘導する。